

巻頭言

人は失敗から学び成長する

さいたま市教育委員会 羽島隆夫
総括監兼学校教育部長

私が初めてコンピュータを購入したのは昭和61年であった。まだ、CPUも8ビット、16ビットが普通で、ソフトウェアもコンピュータのメーカーごとに異なっているなど、今では想像もつかない時代であった。そんなコンピュータを学校の事務処理、成績処理に活用できないかと考え、文書作成、データ処理などの事務処理ができるコンピュータを「清水の舞台から飛び降りる」気持ちで当時60万円程で購入した。また、購入した以上「何とか使いこなさなければ…」と秋葉原に通い、専門店の店員にアドバイスをもらったり、関係資料を調べたりして、何とか使えるようになるまでは苦勞の連続であった。

多少使えるようになると、より使いやすくしたくなり、システムの改良に何度か取り組んでみたが、システムの改良は失敗を伴うことが多く、すべての調整が完了しコンピュータの電源を入れても、コンピュータが正常に作動しないこともあった。ところが私の悪い癖で、仕事が込んでいる時に限ってシステムを調整したくなり、明日までの大切な仕事を完了させるため、徹夜となってしまったことも何度かあった。しかし、「失敗」を伴う調整にあえて取り組み、悪戦苦闘の末コンピュータが正常に作動した時に「やったー!!」という成功の喜びと同時に、コンピュータに関する知識や技術の量が増えていったのではないかと思う。

私たちは、様々なことに取り組む過程において「失敗」から逃れることはできない。また、失敗を恐れて何にも取り組まないのでは、何も学ぶことはできないし成長もない。失敗を恐れず、何事にも果敢に取り組むことにより新たな道が開かれ、成長があるのではないか。